

京都文教短大 ○中村博幸 秋尾保子 目白学園女子短大 矢内秋生 池田勝枝

【目的】筆者らは、生活情報に関してその定義を提案し、日常における情報行動の分析を行い、情報教育(情報活用能力の育成)の立場から、生活情報の教育についての研究を行ってきた(家政学会及び関西支部他)。そこで次のステップとして、生活情報の立場を中心にすえた教育のカリキュラムの編成に向けて提案を行う。

【方法】生活情報は「生活者が生活環境をコーディネートする為の情報」であるから、生活者が主体的に生活環境をとらえた上で、生活環境とのダイナミックな関わり方を考えることが大切である。また情報社会の高度化による、情報科学的方法や情報機器などの手段を活用する力を身につけることも大切である。これらをふまえて、学習目標をあげる。

- (1)生活情報の定義と必要性--情報化社会、生活の場と内容の変化
 - (2)情報活用能力と問題解決--情報活用の要素、生活者としての主体的な問題解決能力
 - (3)情報科学のテクニック--情報処理技術、情報機器などが活用できる力
 - (4)生活環境と生活情報--生活者が生活する(環境をコーディネートする)為の生活情報の役割
 - (5)能動的な情報生活に向けて--情報コミュニティの実現、日常生活に溶け込んだ情報行動
- さらにこの学習目標をもとに、生活情報論のカリキュラムを作成した。(別途資料)

【結果】生活情報の教育の3本柱 I生活情報論 II情報処理教育 III情報活用演習のうち、Iのカリキュラム作成を中心に報告した。(II・IIIについては、続報)

その結果、以下の事が今後の検討課題として明らかになった。

- ・情報コミュニティについて—実例の収集、形成の方法、運営の方法、目的及び内容の構造化
- ・情報生活とは—情報的に豊かな生活の内容、生活環境・生活文化などとの関係の分析